

『或問』発刊にあたって

内田慶市

十六世紀後半からのヨーロッパ宣教師をその主要な担い手としたいわゆる「西学東漸」という一つの大きな文化事象とそれに伴う東西の「言語文化接触」に関わる研究は、ここ数年来盛んに行われるようになってきた。

国際シンポジウムもすでに何度も開催されてきている。本誌を発刊する機は熟したと言うことができる。この種の研究において最も特徴的なことは、それが言語学、社会学、歴史学、地理学、天文学、物理学、化学等々の様々な分野にまたがる「総合的」「学際的」な視野が何よりも要求されるということであろう。それはまた「伝統的支那学」が追い求めたものと本質的な部分で実は一致するということもできるかも知れない。

従って、本誌はいかなる分野からのアプローチであれ、「近代における東西の言語文化接触」に関わる問題を取り上げたものであれば、一定の水準を満たすという条件の下で、その掲載を拒否しない。ただ私たちが取る唯一の基本的立場だけは示しておく。

「学問（真理）の前では何人も平等である」という立場である。

そのことは「通説を鵜呑みにしない」「権威に盲従しない」という立場でもある。そしてその前提として「先ずは疑え」が存在する。「なぜ？」という問いかけがなければいかなる問題も生まれてはこない。『或問』と命名した所以でもある。本誌の趣旨に賛同される多くの研究者、とりわけ若き学究の徒の積極的な参加を期待するものである。

なお題字は陳波氏にお願いした。記して感謝の意を表しておきたい。